

2015-01-05

# ふじさわ・九条の会ニュース

NO39



発行人 ふじさわ九条の会 事務局長 島田啓子 0466-34-5843

<http://hws2.spaaqs.ne.jp/fujisawa9jo/>

mail:mk-muran@cityfujisawa.ne.jp(ニュース担当)

## 年末総選挙の結果～安倍首相の思惑通りに行かず

### —自公横ばい、民主微増、維新微減、共産躍進—

安倍内閣は昨年暮れ、突然、解散総選挙を強行した。消費税の10%先送りを名目にしたものの、真の目的は野党の選挙準備が整わないうちに選挙を強行し、憲法改正の下地づくりを狙ったものであった。しかし、結果は思惑通りとはならず、自公横ばい、民主微増、維新微減、共産躍進という結果におわった。確かに今回の選挙で、自公合わせ改憲に必要な3分2議席を引き続き確保したので、大手マスコミは自民大勝、圧勝と報じたが、選挙結果を詳しく分析すると、国民は安倍首相の進める改憲を容認したものではないことを物語っている。

### 今回の選挙の分析

- ①、自民党は296議席を確保したが、選挙前より4議席減らし、得票率は33%に過ぎない。投票率が52%と戦後最低だったので自民党に対する国民の支持率は、投票率52%×得票率33%=国民の支持率は17%だったにもかかわらず、小選挙制の弊害によって296議席をとったものである。
- ②、一方、基地問題が争点となった沖縄では、基地反対の島ぐるみ連合の前に自民党は4選挙区とも完敗を余儀なくされた。
- ③、改憲反対勢力は、民主微増、共産躍進と議席を増やしている。
- ④、自民党は、勝った勝ったと手放しに喜んでいるが、今回の選挙結果は、投票率や得票率を見ても、国民は決して安倍首相の改憲路線やアベノミクス、集団的自衛権、秘密保護法

を容認したものとはならない。

### 投票率の低さと小選挙区制の問題点

今回の選挙で自民党の大勝を許した国民の側の問題点は、投票率が52%と戦後最低だった点を上げなければならない。低投票率であればあるほど小選挙区制の弊害が顕著に表れるものである。

小選挙区制の下では有権者が投票に行かなければ一部の人の思惑で政治が左右されてしまう。小選挙区制の弊害を正すためには、これからの選挙において、みんなが投票に行き投票率を高めることが重要である、併せて、小選挙区制を中選挙区制に戻すこと、比例代表の数を増やすことなども検討されてしかるべきである。

### 来年の参議院選に向け

#### 改憲の動きを阻止しよう

選挙後の記者会見で、安倍首相は「今回の選挙で国民の信任を得た。明文改憲も歴史的チャレンジだ。」と改憲に向け積極推進の姿勢を明らかにした。そもそも今回の選挙を「アベノミクス解散」と位置づけ争点を限定しながら、選挙が終わると、改憲も集団的自衛権も機密保護法も、白紙委任を受けたかの様な言い方である。今後、安倍首相は来年7月の参議院選挙で3分2の議席をとり9条改悪を狙っている。私達は、こうした安倍首相の策謀を許さないために、今年も9条を守る運動を更に強めて行かなければならない。(ニュース担当 小林麻須男)



## 藤沢市議会 憲法改正促進意見書採択



12月19日藤沢市議会最終日、憲法改正促進意見書提出の議員提案が自民クラブ藤沢桜井直人議員からあり、採決の結果採択された。{上写真}賛成～自民クラブ藤沢（提案会派）、自由松風会（提案会派）、公明党（提案会派）、ふじさわ自民党（提案会派）、さつき会、改進黨無所属クラブ、かわせみクラブ1名 計24人。

反対～かわせみクラブ（反対討論）、共産党（反対討論）、アクティブ藤沢（反対討論）、神奈川県ネットの計10人。

意見書は、直接9条改正には触れていないが、「9条改正について地方議会から国に意見書を提出して行こう」という自民党の方針に沿ったものであり、藤沢における新たな動きに対して警戒してゆかなければならない。（島田 啓子）

## 第2回「本気で憲法を考えよう」の学習会に150人参加



会場に開催された、この講演会（二人のパネラーによるトークセッション）はユニークであった。まず、主催の「あつまろーず・藤沢」の代表・浮田さんが挨拶し、「安倍内閣の暴走に黙っていられなくて、それまで別々に社会的市民活動をしていたメンバーが、お互いに協力し合っ

2014年  
10月  
26日

（日）、  
藤沢商  
工会議  
所のホ  
ールを

て何かできないかということで集まって、今日、2回目の集会になった。」と2回目の学習会の意義を話された。したがって、この点が、これまでの「九条の会」が、九条と憲法への想いをお互いに確認し、その想いを高めるにふさわしい講演を聞くという集会とはちがっていた。

講師（パネラー）は第一回にもみえた若き憲法学者、木村草太さんと、鋭い感性で「いま、日本に何が起きているか」を問い続けている森達也さん（映画監督）であった。参加者も「九条の会」の講演会ではみられない顔・顔・顔であった。年代も少し若かった。アンケートに50名の方が応えていた。そのうち30歳～50歳の応えが18枚あった。この集会のユニークさは、パネラーの話の内容とアンケートの内容にもあるのだが（今回はスペースの都合上割愛）、みんな憲法に関心を持ってあつまった方々である。こういう方々との交流を深めて「九条を守る輪」を広げたいと強く思った。（斎藤 隆夫）

## 明治地域で、初めての チラシ配りと憲法学習会



### <チラシ配り>

明治地域九条の会も歩みだして8年がたちますが、なかなか行動が進まず苦勞していました。そんな時に「ふじさわ・九条の会」から年二回行っているチラシ配布を明治地域で行いたいという話がありました、再開した私達の会としても心強いことでした。

10月23日の空模様が心配でしたが当日は8つの地域の会から20数名の方に参加していただき事前に準備した地域の地図を基に2200枚のチラシを配ることができました。

<明治地域九条の会 鈴木 建志>



## ＜憲法学習会＞

11月には、戦後、憲法ができてすぐに中学1年生向けに文部省が発行した「あたらしい憲法のはなし」を読みあわせ学習会をおこないました。12月に2回目を実施し、全部を読み終えました。悲惨な戦争の反省から「戦争しない、武器を持たない、国際紛争の解決は話し合いで」と呼びかける当時の文部省の熱意を感じ取りました。憲法9条・平和主義が日本国憲法の中核をなすものです。それに、主権在民、基本的人権、議会制民主主義、地方自治がその基本原則であることがよく、伝わる内容でした、しかし、この副読本は3年位で消えてしまいました。

2月5日（木）には、自説党の憲法草案を読み解く予定です。自民党がどんな国をめざそうとしているのかをみんなで学び合います。

＜明治地域九条の会 宮本忠彦＞

## 1月30日 湘南台九条の会 第8回総会と学習の集いを開催 九の日行動の報告と確認

- ・毎月、9の日、湘南台駅東口マイク宣伝(参加者10名前後)、チラシ配り、署名とり(署名数357筆、10月からはノーベル平和賞署名)
- ・マイクを握る人は6名に増えました。
- ・私製のノボリ旗を作製(下写真参照)



以来、宣伝行動は大変目立つようになりました。

### 学習～『集団的自衛権と閣議決定』 講師、野村正勝弁護士

大変解りやすい講演でした。九条解釈をねじまげ、戦争ずる国にしようとする安倍内閣の悪にくみに、一層理解が深まりました。

### 3分間スピーチ

今回はこの時間を活用し、なるべく多くの人に発言していただくことに狙いを置きました。意見のいくつかをあげますと

- ・私は平和が好きで戦争が嫌いです。ですから9の日行動ではいつもチラシをまきます。一人でも多くの方が読んでくれるように、と祈りながら(女性)
  - ・戦争で犠牲になるのはいつも庶民だ。絶対に戦争を起こさせてはならない(男性)
- 以上2名だけあげさせていただきました。

＜湘南台九条の会 上野 武雄＞

## －秋の学習会－

### 安倍政権の安保政策を徹底批判 柳澤協二氏が講演



「ふじさわ・九条の会」は昨年11月24日、「亡国の安保政策」(岩波書店)の著者、柳澤協二氏を招き、藤沢市民会館で講演会を開いた。同氏は「安倍政権の安保政策と国民の選択」の演題で1時間半にわたって安倍政権の掲げる「積極的平和主義」を批判し、その後、参加者からの質問に丁寧に答えた。

柳澤氏はまず日米安保条約が不平等条約であることを指摘。そのうえでたつて昨年、安倍政権が閣議決定した集団的自衛権容認について論理性、具体性がないと批判し、またこれは憲法前文に違反していると語った。

同氏は防衛庁の幹部職や4代の政権で内閣官房副長官補を歴任した安全保障政策の専門家だけに、話の内容は具体的で、また説得力をもったものだった。例えば、自衛隊のイラク派遣について政府は「一発の弾も撃たなかった」と強弁するが「現地へ派遣された自衛隊員が後遺症で28人も自殺している」との話はショッキングだった。「結局のところ安倍政権の積極的平和主義のスローガンは憲法解釈変更への国民の抵抗を減らすためのレトリックにすぎない」とは、納得できる指摘だった。(石崎 一二)



## 「声をあげよう 藤沢ピースパレード」 市民会館～藤沢駅北口まで120人



12月7日  
「声をあげよう！  
藤沢ピースパレード」に参加しました。

参加者は若い人を中心に120人。当初2人の子供も含め一家4人で参加予定でしたが、子供らが風邪気味でしたので1人で参加し、選挙戦真っ只中の藤沢駅前をパレードしてきた。集団的自衛権から原発、沖縄の基地、消費税の問題まで、将来にわたって不安で一杯の現在ですが、家の子供らは日々無邪気に育っています。このささやかな日常を壊すものに対する抵抗の気持ちは誰でも一緒です。ただどう行動したら良いのか分からない人も数多くいると思います。日々の生活視点からスタートし、たくさんの人が繋がれるピースパレードがもっと大きくなれば良いなと思っています。(米山 亮)

## 機雷掃海艇「えのしま」号見学 ライトアップで江の島に来航



江の島ライトアップの環境で、機雷掃海艇えのしまが来ており艦内公開に行ってきました。

安倍首相が集団的自衛権行使の事例として、ホルムズ海峡掃海を上げた事により、行使が現実味を帯びてきた中での見学です。操舵室から厨房食堂、甲板上の掃海機器そしてカバーが掛かっていましたが、舳先のバルカン砲など、ほぼ全体を見せていたのではないかと思います。

子連れの家族が大半で、ゆるキャラの着ぐるみやサンタが出迎え、掃海艇説明の後にスーパーヒーローショーの寸劇、艦内でのスタンプラ

リーやグッズの配布、対応する自衛官は中々に丁寧且つソフトで、つまり実に「ようこそ」感満載の雰囲気でありました。自衛隊に取っては入隊歓迎というウェルカム感を押し出し、同時に私達の日常の中に自衛隊への親しみという、ウェルカムの感情を醸成していくのだと思いました。非常に周到に企画されていたと思います。(吉塚 晴夫)

## ピースリングバスツアー(続き) 東京大空襲戦災資料センターにて 國枝 健

1945年3月10日未明、東京では、B-29約500機の爆撃によって100万人が被災、10万人が犠牲になった。館内中央の米軍が撮影した大きな航空写真の前で自分が生まれた日本橋を探した。カバンの中からメガネを出して、両国橋、隅田川、浅草橋駅、国技館をみつけたかった。写真を見ていると、他のグループの来館者の老婦人が話しかけてきた。焼け跡と言うようなガレキだらけの地図を見つめ「生まれた所を」と返事する。老女も日本橋を探していたのだった。彼女の話によると、「大空襲の時は小学3年生。生まれたばかりの妹をネンネコで背負い、3才、5才の弟の手を引いて母と五人で、初めは一緒に逃げたが、途中ではぐれ、背中の妹と二人になった。防火用水があれば湯のような水をかけたが、髪も焼けとれ、妹も動かないそれでも火のない方へ逃げた。夜になって、ネンネコの中で生まれたばかりの妹は冷たくなっていた。」と話してくれた。その老婦人から、私に「五歳のあんたは運がいいネー！、よく生き残れたネー！」とマジマジ見つめられ感心された。(続く)

## =告知板=

### 9の日行動

1月12日(月・成人の日)11:30～  
藤沢駅南口 しおり配布

2月9日(月)13:30～ サンパール広場

### 10周年のつどい

4月29日(水・祭)市民会館小ホール

記念講演～孫崎亮さん、パレード実施

### 2015年度全体集会

5月16日(土) 13:00～市民会館会議室